

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和 7 年 6 月 26 日	
愛知県知事 殿	
提出者	
住 所 名古屋市中村区名駅二丁目29番16号	
氏 名 フタムラ化学株式会社	
代表取締役社長 長江 泰雄	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 052-565-1212	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	フタムラ化学株式会社 田原開発センター 分室
事業場の所在地	田原市緑が浜四号1番地41
計画期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	09：食料品製造業
②事業の規模	467,760千円/年
③従業員数	38人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) センター長 (廃棄物処理統括責任者) 環境・設備グループ └ 環境・設備グループ グループリーダー (廃棄物担当者) 安全・環境グループ (フタムラ化学グループ組織) 安全、環境の管理委員会 環境では、廃棄物の発生抑制、再資源化、処理の適正化、計画の推進をおこなう			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度 (6 年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	排 出 量	同上 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	排 出 量	同上 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) プラ金属混合廃棄物を分解可能な場合はプラと金属に分別		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) プラ金属混合廃棄物の分解分別を継続		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2とおり	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	同上 t	t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2とおり	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	同上 t	t
	(今後実施する予定の取組) —		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	同上 t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	同上 t	t
	(これまでに実施した取組) 排水処理設備、脱水機の安定稼働 PAC凝集剤継続		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	同上 t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	同上 t	t
	(今後実施する予定の取組) 排水処理設備、脱水機の安定稼働 PAC凝集剤添加継続		

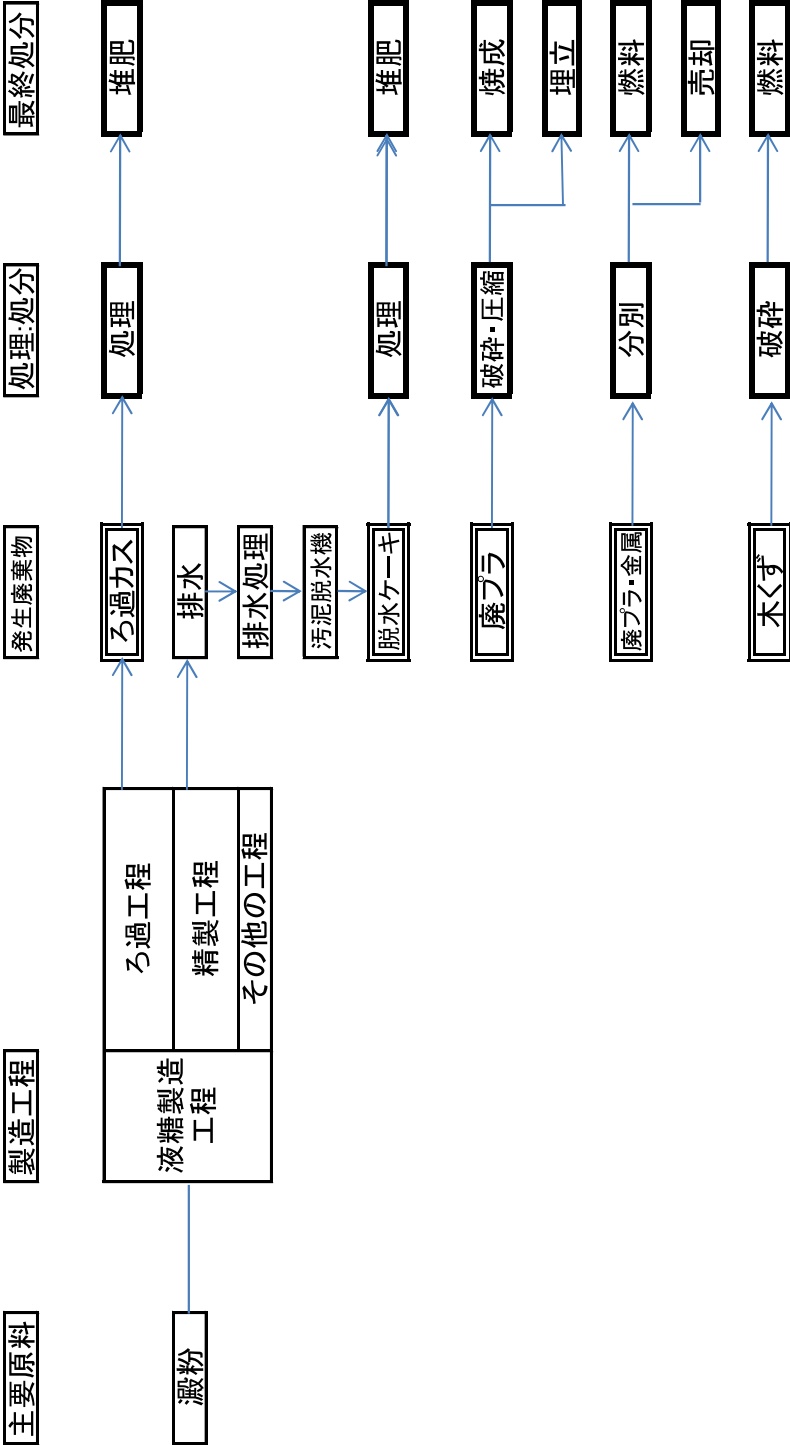
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	同上 t	t
	（これまでに実施した取組） 配管敷設時、塩ビパイプの採用抑制		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	同上 t	t
	（今後実施する予定の取組） 配管敷設時、塩ビパイプの採用抑制		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	全 処 理 委 託 量	同上 t	t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	同上 t	t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	同上 t	t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	同上 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	同上 t	t
	（これまでに実施した取組） 1. 新規委託時は優良処理業者を優先して選定する。 2. 処理業者の訪問確認を行う。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	全 処 理 委 託 量	同上 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	同上 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	同上 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	同上 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	同上 t	t
	(今後実施する予定の取組) 1. 新規委託時は優良処理業者を優先して選定する。 2. 処理業者の訪問確認を行う。		
	※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

液糖製造工程に産業廃棄物の処理工程



産業廃棄物の種類 項目		汚泥		動植物性残さ		廃プラスチック類		廃プラ金属混合		木くず		ガラス、コンクリート、陶磁器		金属くず		ガラス、コンクリート、陶磁器		金属くず		がれき類		合計	
		6年度	7年度	6年度	7年度	6年度	7年度	6年度	7年度	6年度	7年度	6年度	7年度	6年度	7年度	6年度	7年度	6年度	7年度	6年度	7年度	6年度	7年度
全処理委託量		513.26	509	196.9	194	7.06	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.49	0	721	710
優良認定処理業者への処理委託量		7.76	7	0	0	6.28	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.49	0	18	13
再生利用業者への処理委託量		505.5	501	196.9	194	6.28	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	709	701
認定熱回収業者への処理委託量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(単位: t / 年)